

# 第2次 丸亀市文化振興基本計画実施計画

## 重点進行管理項目進行管理表

(2017~2021年度)



基本計画事項1 文化芸術活動の振興に関すること								
実施事業決算額	施策No.	事業名	基準値(千円) (2016)	各年度決算額(千円)				
				2017	2018	2019	2020	2021
	①	綾歌総合文化会館運営事業 (指定管理料)	42,140	41,480	40,480	53,400	67,475	51,400
	②	猪熊弦一郎現代美術館運営事業 (指定管理料) ※2018・2019年度は直営	171,280	170,700	158,616	166,428	220,354	219,000
	③	まるがめ文化芸術祭主催公演・展覧会	1,500	1,500	1,500	1,500	400	1,500
	④	地域への出前文化教室	988	983	878	2,301	0	1,500
	⑤	学校芸術鑑賞教室	1,275	1,279	1,275	1,690	0	2,432
	⑥	丸亀市文化功労者・振興者・奨励者の表彰	90	135	0	0	98	191
	⑦	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館ゲートプラザ 活用事業	228	243	1,010	0	0	637
	⑧	まるがめ第九演奏会(プレコンサート含 む)	0	0	0	0	0	0
	⑨	文化庁事業「文化芸術による子どもの育成 事業(巡回公演事業)」	0	0	0	0	0	0
	⑩	若手芸術家支援事業	621	584	617	40	638	702
	⑪	文化財活用事業	154	0	0	860	446	0

成果の指標	指標名	基準値 (2016)	各年度毎成果					目標値
			2017	2018	2019	2020	2021	
1	綾歌総合文化会館文化公 演・講演、講座などの開催 回数	12 回	27 回	30 回	25 回	6 回	19 回	30 回程度
2	猪熊弦一郎現代美術館常設 展及び企画展への市民入館 者数	14,724 人	14,249 人	6,457 人	0 人	-	- 人	30,000 人
3	猪熊弦一郎現代美術館ワー クショップなどインリーチ 事業開催回数	64 回	66 回	409 回	256 回	86 回	419 回	400 回
4	猪熊弦一郎現代美術館出前 講座などアウトリーチ事業 開催回数	10 回	17 回	55 回	47 回	0 回	31 回	52 回
5	地域への出前文化教室の開 催回数	4 回	4 回	4 回	8 回	0 回	5 回	8 回
6	学校芸術鑑賞教室の開催回 数	5 回	5 回	5 回	7 回	0 回	8 回	10 回
7	猪熊弦一郎現代美術館ゲ ートプラザ活用事業の開催回 数	2 回	3 回	3 回	0 回	0 回	1 回	3 回
8	若手芸術家支援事業開催回 数 (採択数)	2 回	2 回	2 回	0 回	2 回	2 回	2 回

各年度評価	2017	市民会館が2016年度末に閉館したことから、本市における文化芸術鑑賞や文化活動の機会が減少しているが、綾歌総合文化会館へ事業を引き継ぐことに努めたことにより市民への影響は最小限に留めている状況である。また、あらゆる市民が文化活動に参画したり文化芸術の鑑賞機会の充実には努めているが、顕著な成果として現われていないことから、関係機関等とも連携を強化して、市民がより参加しやすい環境の整備に努めたい。なお、猪熊弦一郎現代美術館は、文化振興の中核施設と位置付けていることから、保有する資源の積極的な活用に努めたい。
	2018	猪熊弦一郎現代美術館が長寿命化工事のため10月からの長期休館となっているが、インリーチ活動として造形体験や対話型鑑賞などが毎日体験できる「ここがMIMOCA」、アウトリーチ事業としてMIMOCA職員が地域へ出向き、美術や美術館の出前講座や創作型のワークショップなどを実施する「どこでもMIMOCA」を実施し、リニューアル後も広く市民に親しまれるよう、文化芸術に接する機会を拡充した。また、引き続き市民会館は閉館中であるが、昨年度同様綾歌総合文化会館へ事業を引き継ぐことに努めたことにより市民への影響は最小限に留めている状況である。
	2019	猪熊弦一郎現代美術館が長寿命化工事のため休館中となっているが、インリーチ活動として造形体験などが体験できる「丸亀ここがMIMOCA」を旧重元果物店で、アウトリーチ事業として地域や学校へ出向き、講座やワークショップなどを実施する「丸亀どこでもMIMOCA」をそれぞれ実施することで、リニューアル後も広く市民に親しまれるよう、文化芸術に接する機会を拡充した。
	2020	新型コロナウイルスの感染拡大により多くの事業が実施できなかったが、猪熊弦一郎現代美術館では、教育普及事業や新規事業の「親子でMIMOCAの日」について、感染防止に配慮しながら実施したほか、インターネット環境を整備し、ギャラリートーク等のYouTube配信や来館者と学芸員がリモート対話しながら鑑賞する企画等、積極的に事業継続に取り組んだ。なお、成果の指標2については、新型コロナウイルスと感染予防のため入館時の調査を中止したことから市民入館者数を算出できなかった。市内でも多くの文化芸術活動において、継続に苦慮する状況が見受けられた。コロナ禍のような状況の中にあっても、どのようにすれば文化芸術に関する活動が継続でき、必要とする人たちに提供できるかを検討してまいりたい。
	2021	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大により猪熊弦一郎現代美術館では、2度の臨時休館や全国的な行動の自粛要求により入館者数は減少したが、展覧会の開催に併せ多様な分野との協働による新たな取り組みとして、NHK高松放送局と連携した地域参加型プログラムや教育普及事業であるカラダを使ったワークショップ、ものづくりワークショップなどアウトリーチやインリーチを感染防止に配慮しながら実施することで文化芸術に接する機会を拡充した。また、綾歌文化総合文化会館による文化事業において、幼稚園やこども園、小学校で芸術鑑賞教室を実施し、豊かな創造性、感性等を育む子供たちに、コロナ禍で減少した多彩な文化芸術に親しむ機会をつくった。少しずつはあるが、いろいろなコロナ対策を講じながら文化芸術に関する活動を行い、子どもから高齢者に至るまで提供できるよう努めた。
5 カ 年 総 括		綾歌総合文化会館で既存事業に加えて、閉館した市民会館から引き継いだ公演等を継続して開催するとともに、美術館によるワークショップ等を積極的に実施したことから、計画期間前半は目標値の達成を見込める状況であった。しかしながら、2019年以降はコロナ禍により事業の実施が困難な状況となり、目標値を達成した指標は2項目のみとなった。コロナ対策の見直し等で一定の回復が見られるものの、コロナ禍前の状況には至っていないため、引き続き市民が文化芸術に触れる機会の充実を図る。

基本計画事項2 伝統文化の保存、継承及び活用に関すること								
実施事業 決算額	施策 No.	事業名	基準値(千円) (2016)	各年度決算額(千円)				
				2017	2018	2019	2020	2021
	①	国事業「伝統文化親子教室」	0	0	0	0	0	0
	②	県事業「ふるさと芸能わっしょいしよい」事業	0	0	0	0	0	0
	③	無形文化財保存会補助事業	231	231	231	331	180	180

成果の 指標	指標名	基準値 (2016)	年度					目標値
			2017	2018	2019	2020	2021	
1	「伝統文化親子教室」実施数	3 事業	4 事業	4 事業	4 事業	4 事業	3 事業	9 事業
2	「ふるさと芸能わっしょいしよい」実施数	2 事業	2 事業	2 事業	2 事業	1 事業	2 事業	3 事業

各年度 評価	2017	伝統文化の保存に係る担い手の減少に伴い、伝承者の確保が困難となっている。無形民俗文化財となっている団体に対しては、助成を行い、活動支援を行っているものの根本的な解決には至っていない。国・県の実施する事業の利活用に向けて、積極的な働きかけを行っているが、顕著な成果が見られないことから、学校や地域コミュニティ等とも連携して、学習・参画機会の拡充に努めたい。
	2018	市内には様々な種類の民俗芸能が伝承されており、これらは市にとっても誇りある伝統文化である。しかしながら、後継者不足から伝承が危うくなるものも存在している。活動団体について助成を行い、活動支援を行っているが、大きな流れを食い止めるには至っていない。国・県の実施する事業の利活用に向けて、積極的な働きかけを行って、学習・参画機会の拡充に努めたい。
	2019	昨今の社会の急激な変貌により、長期にわたって継承されてきた伝統文化の継承は困難になっている。無形民俗文化財となっている団体には助成を行い、活動支援を行っている。特に坂本念仏踊りが3年に1度の「あたり年」であったため、補助を増額対応し、多くの踊り手が参加しての奉納の一助となった。今後もきめ細かな対応に努めたい。
	2020	社会構造の変化や担い手の高齢化、人口減少等による伝承者の不足に加え、新型コロナウイルスの感染拡大により、活動が制限され、公開する機会が失われる等、伝統文化の保存や活用に与える影響が広く及んでいる。感染状況は刻一刻と変化しており、いまだ通常の活動を行うことは困難な状況であるが、制限がかかる中でも可能なことについて、活動支援を図りたい。
	2021	無形民俗文化財となっている団体に対しては、国、県が実施する助成事業により活動支援を行っているが、伝統文化の保存等の担い手となる伝承者の減少や伝統文化に触れる機会が少なくなっていることから、伝統文化の保存や継承が課題となっている。今後も様々な機会をとらえ、学校や地域等と連携し、伝統文化の活動を支援するとともに、継承や活用に努めたい。
5カ 年 総 括	国、県の助成事業を活用し、子どもたちや若い世代への保存・継承活動に取組む団体を支援してきたが、指標の目標値達成には至らなかった。依然として担い手となる伝承者の高齢化や減少が課題となっていることから、これまでの取組みに加え、保存・継承を担う団体をはじめ、学校や地域等とも連携しながら、伝統文化を知り、体験できる機会の提供に取り組む。	

基本計画事項3 自主的文化活動の促進に関すること								
実施事業 決算額	施策 No.	事業名	基準値(千円) (2016)	各年度決算額(千円)				
				2017	2018	2019	2020	2021
	①	まるがめ文化芸術祭：文化行事集約広報事業	655	477	488	550	301	405
	②	生涯学習講座	737	504	426	329	613	528
	③	生涯学習クラブ：生涯学習まつり・コミュニティまつり	180	180	180	180	0	0
	④	社会教育団体への支援：婦人会・高齢者団体・青年団体・少年団体・ジュニアリーダー	13,985	13,667	15,819	14,496	10,339	11,157

成果の 指標	指標名	基準値 (2016)	年度					目標値
			2017	2018	2019	2020	2021	
1	まるがめ文化芸術祭掲載行事数	62 行事	39 行事	33 行事	42 行事	24 行事	27 行事	70 行事
2	市民学級の参加者数	544 人	507 人	708 人	697 人	461 人	556 人	700 人
3	NPO・企業・大学など各種団体と連携したまちづくりにつなげる講座の企画・提案数	3 提案	3 提案	3 提案	5 提案	5 提案	7 提案	3 提案
4	クラブの学習成果の発表を行ったクラブ数	371 クラブ	380 クラブ	370 クラブ	367 クラブ	341 クラブ	342 クラブ	390 クラブ
5	クラブ紹介する登録クラブ数	371 クラブ	380 クラブ	370 クラブ	367 クラブ	341 クラブ	342 クラブ	390 クラブ
6	各団体の活動支援・助成する団体	8 団体	7 団体	7 団体	7 団体	7 団体	7 団体	8 団体

各年度 評価	2017	本市における文化芸術に関する活動や参画機会を持続的に維持するためには、市民による自主的な活動を推進する必要があるが、2016年度末の市民会館閉館により、活動場所が減少している。そこで、地区コミュニティセンターなどの空きスペースに関する情報を積極的に提供することにより、市民の文化活動の維持に努めている。今後は、更に各施設との連携や空き状況などの情報の共有化にも努め、市民の自主的文化活動の拡充を図りたい。
	2018	本市における文化芸術・生涯学習に関する活動や参画機会を持続的に維持するためには、市民による自主的な活動を推進する必要があるが、市民会館閉館の影響により、活動場所が減少している。そこで、地区コミュニティセンターなどを積極的に活用することにより、市民の文化活動の維持に努めている。今後は、更に各施設との連携や空き状況などの情報の共有化にも努め、市民の自主的文化活動の拡充を図りたい。
	2019	本市における文化芸術・生涯学習に関する活動や参画機会を持続的に維持するためには、市民による自主的な活動を推進する必要がある。しかし、緩やかではあるが、クラブ会員の高齢化や会員数の減少などの課題も出てきている。そこで、活動の主会場である生涯学習センターだけでなく、地区コミュニティセンターなどを積極的に活用することにより、利便性の向上を図り市民の文化活動の維持に努めている。今後は、市民の自主的文化活動の拡充を支援するための情報提供を充実させていきたい。
	2020	日頃の生涯学習クラブ活動の成果を披露したり、学んだ知識を地域に還元する機会である「生涯学習クラブまつり」が、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。クラブ会員の高齢化の要因も重なり、緩やかにはあるが、会員数が減少している。今後は、施設管理者と連携を図りながら、安全に活動できる環境を整え、会員数減少の抑止に努めていきたい。
	2021	日頃の生涯学習クラブ活動の成果を披露したり、学んだ知識を地域に還元したりする機会である「生涯学習クラブまつり」が、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。それだけでなく、貸館の休館など日ごろの生涯学習クラブ活動に制限がかかることにより、会員数の減少に拍車がかかることとなった。今後は、施設管理者と連携し、より安全に活動できる環境を整え、会員数減少の抑止に努めていきたい。また、新型コロナウイルスの影響で減少していた市民学級の参加者数は、増加に転じた。今後も引き続き魅力ある講座を開催するとともに、オンラインでの講座も増やしていきたい。
5カ 年 総 括		自主的な文化活動については、コロナ禍により、日常的な活動や活動成果を発表する機会を設けることが困難な状況であったことも影響し、成果指標の目標値を達成したのは1項目であった。活動に関わる団体数は、高齢化の影響もあり減少傾向である。既存公共施設のほか新市民会館も含めた発表の場の提供や、活動に関する情報の発信等により、活動に関わる方の確保につなげる。

基本計画事項4 文化財の保存及び活用に関すること								
実施事業 決算額	施策 No.	事業名	基準値(千円) (2016)	各年度決算額(千円)				
				2017	2018	2019	2020	2021
	①	丸亀城跡の保存・整備事業	36,478	38,263	115,679	328,881	488,443	744,594
	②	丸亀城天守の公開事業	4,428	4,542	4,699	4,948	5,594	5,787
	③	快天山古墳の保存・整備事業	2,833	8,982	34,207	2,239	2,088	6,255
	④	塩飽勤番所跡の保存・活用事業	3,520	3,520	3,400	4,567	3,804	4,563
	⑤	笠島伝統的建造物群保存地区の保存・活用事業	13,516	9,585	13,520	11,331	22,594	16,247
	⑥	文化財活用事業	1,850	1,432	3,078	5,330	446	0
	⑦	ボランティアガイドの育成	0	0	0	0	0	0
	⑧	文化財保護協会活動補助	40	40	40	40	40	40
	⑨	指定文化財の調査・保存・整備事業	15,837	3,235	1,522	4,950	0	1,270
	⑩	埋蔵文化財調査事業	12,439	12,075	12,264	10,823	12,402	23,218
	⑪	文化財公開・学習事業：まるがめ文化財の日など	0	0	0	0	0	0
	⑫	資料館管理運営事業	14,601	21,411	21,312	22,190	22,806	25,452
	⑬	京極家資料調査・修復等事業	3,067	1,821	1,886	1,889	3,366	2,486

成果の指標	指標名	基準値 (2016)	年度					目標値
			2017	2018	2019	2020	2021	
	1 丸亀城天守の入場者数	112,493 人	122,591 人	106,831 人	124,287 人	58,217 人	61,890 人	130,000 人
	2 資料館入館者数	30,000 人	33,907 人	26,463 人	28,419 人	15,010 人	26,399 人	37,000 人
	3 指定文化財修理・維持管理補助件数	2 件	2 件	2 件	1 件	0 件	2 件	7 件
	4 ボランティアガイドの研修会参加人数	62 人	39 人	65 人	41 人	25 人	15 人	80 人

各年度評価	2017	本市には、郷土における歴史資源である重要な文化財が多く所在し、保存管理については多額の予算を必要とするが、国等からの補助金も併せてその獲得に努めている。また、文化財の適切な保存整備を進めるとともに、保存整備された文化財の積極的な情報発信や公開・活用を促進することで、特に丸亀城への来場者は著しい増加傾向にある。更に、ガイドや保護活動団体の育成・支援を積極的に行い、市民による文化財保護に関する意識の醸成に努めているが、担い手不足が懸念事項となっている。学校や地域との連携を強化し、学習機会や体験の機会の拡充に努めたい。
	2018	7月及び10月に丸亀城の帯曲輪南西部の及び三の丸坤櫓跡の石垣が崩落したため、その修復に取り組んでいる。応急対策工事を施工中であり、また本格復旧工事に向けてはプロポーザルを行った。今後修復を進めるには多額の予算を必要とするが、国等からの補助金の獲得に努めている。また、ふるさと納税や寄付金、募金等も受付けており、幅広い支援をいただいている。今後修復にあたっては、その状況を積極的に情報発信や公開・活用を促進することが必要となる。工事施工業者が決まったらその方法等協議を行い、またボランティアガイドやとの連携を強化することにより、文化財保護の意識を高め、早期修復につなげるよう努めたい。なお、天主入場者は10万人は超えたものの微減であり、今後もPRに努めたい。
	2019	崩落した丸亀城石垣の修復について、重要課題として取り組んでいる。応急対策工事を完了し、本復旧工事として崩落の影響を受けて緩みが生じている三の丸石垣の解体工事を施工中である。その過程で事業報告会や現場説明会を実施し、新たに開設した石垣崩落復旧整備事業PR館にて展示を行うこと等により情報発信に努めた。市民の復旧工事に対する理解を深め、早期復旧につなげるため、新たな手段も含めさらに積極的に公開・活用に努めたい。
	2020	崩落した丸亀城南西部石垣の修復について、三の丸坤櫓跡石垣とその下段の帯曲輪石垣の解体工事を施工中である。その過程で現場説明会を1月に実施し、現場で発見された埋没石垣の屋外展示を行うこと等により情報発信に努めた。また、崩落個所以外の石垣保全調査や、天守耐震診断といった、丸亀城全体の保全にも取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、丸亀城天守や資料館の入館者といった文化財の公開活用に大きな影響があった。今後は感染状況の情報把握に努め適切な感染防止対策を講じつつ公開に努めたい。
5カ年総括	2021	崩落した丸亀城南西部石垣の修復については、昨年度に引続き崩落石垣の解体、回収を文化財調査を行いながら進めている。崩落の影響で破損が著しく使用できない石垣が多いことから新石材の調達方法を検討し、決定した。また、丸亀城全体の石垣に悪影響を及ぼす雨水について、城内の排水系統を調査し、適切な排水を行うための整備に向けた基本計画を策定した。快天山古墳においては、発掘調査を行い、その成果を市民説明会にて報告し、本古墳に対する啓発、理解に努めた。依然として新型コロナウイルスの影響は大きいものの、今後も様々な機会をとらえ、文化財の公開活用を感染症対策と両立しながら行い、少しでも多くの方が本市の文化財に触れ、理解が深められるよう努めたい。
		成果の指標については、丸亀城天守の入場者数等の活用面で、コロナ禍による影響が大きく達成できなかった。文化財の保存・整備については、崩落した丸亀城石垣の修復や快天山古墳の発掘調査ほか、笠島伝統的建造物群保存地区で改修等を実施した。引き続き着実に保存・整備を進める。文化財の活用については、通常の公開に加え、コンサート等他分野での利用も含め、様々な機会を通して多くの方が文化財に触れ、理解が深められるよう取り組む。

基本計画事項5 文化施設の整備及び既存公共施設の文化的活用に関すること

実施事業決算額	施策No.	事業名	基準値(千円) (2016)	各年度決算額(千円)				
				2017	2018	2019	2020	2021
	①	生涯学習センター・飯山総合学習センター運営事業	84,355	88,217	86,172	83,464	80,835	84,900
	②	コミュニティセンター運営事業	117,424	113,764	116,762	118,854	141,639	142,761
	③	猪熊弦一郎現代美術館ゲートプラザ活用事業等の実施	228	243	1,010	0	0	637
	④	猪熊弦一郎現代美術館造形スタジオ活用事業等の実施	0	0	0	0	0	0
	⑤	公共施設の弾力的な利用促進	0	0	0	0	0	0
	⑥	市民会館に関する検討	0	2,116	6,326	7,385	5,464	7,190
	⑦	小・中学校等教育施設活用事業	0	0	0	0	0	0
	⑧	芸術家等連携普及事業の実施	0	0	0	0	0	0
	⑨	職員研修促進事業	0	0	0	0	0	0

成果の指標	指標名	基準値 (2016)	年度					目標値
			2017	2018	2019	2020	2021	
1	猪熊弦一郎現代美術館ゲートプラザ活用事業の開催回数	2回	3回	3回	0回	0回	1回	3回
2	様々な団体の文化・芸術活動の練習や成果発表をしたクラブ数	371 クラブ	380 クラブ	370 クラブ	367 クラブ	341 クラブ	342 クラブ	390 クラブ
3	文化芸術に関する講座・教室の参加者数	544 人	507 人	708 人	697 人	461 人	556 人	700 人
4	生涯学習クラブ等の文化・芸術活動の練習や成果発表をしたクラブ数	371 クラブ	380 クラブ	370 クラブ	367 クラブ	341 クラブ	342 クラブ	390 クラブ

各年度評価	2017	市民の自主的な文化活動団体は増加傾向であるが、活動場所の確保が急務であると考えられる。公共施設等の開きスペースなどについては、これまでの慣習に捕らわれることなく、誰もが利用しやすい施設運営の働きかけに努めたい。また、これらの施設情報については、積極的に発信するとともに、民間事業者のノウハウを活用するなど、多くの文化活動愛好家が交流できる場所づくりに努めたい。
	2018	市民の文化活動の場所の確保が急務であると考えられる。公共施設等の開きスペースなどについては、これまでの慣習に捕らわれることなく積極的に活用し、誰もが利用しやすい施設運営の働きかけに努めたい。また、これらの施設情報については、積極的に発信するとともに、民間事業者のノウハウを活用するなど、多くの文化活動愛好家が交流できる場所づくりに努めたい。
	2019	市民の文化活動の場所の確保が急務であり、公共施設等の活動スペースについては、今後計画されている生涯学習センターの取り壊しの影響を、市民交流活動センターや新市民会館などの新しい施設ができるまで最小限に抑える必要がある。計画されている庁舎南館の活用だけでなく、これまでの慣習に捕らわれることなく、民間事業者のノウハウを積極的に活用し、誰もが利用しやすい活動場所の確保に努めたい。また、公共施設等の開きスペースなどについては、これまでの慣習に捕らわれることなく積極的に活用し、誰もが利用しやすい施設運営の働きかけに努めたい。なお、これらの施設情報については、積極的に発信するとともに多くの方の交流の場所づくりに努めたい。
	2020	体育施設においては、本来のスポーツ用途での利用以外における空き時間やスペースについては、文化活動団体等からの利用要望に対して積極的に受け入れるようにし、多くの方が交流の場所として利用できるように施設運営に努めたい。
	2021	コロナ禍により施設の使用に制約がある中でも、多くの団体が公共施設等を活用して練習や成果発表を行ったが、多くの活動に利用されている生涯学習センターについて、活用できる期間が流動的であるため、取り壊しの計画が固まるまでの間に、生涯学習センターを利用しつつ、それぞれの活動に必要な機能を備えた他の公共施設（飯山総合学習センターやコミュニティセンターなど）への活動拠点の変更や民間施設の使用について検討する必要がある。
5カ年総括	2021	市内体育施設においては、スポーツ用途での利用以外における空き時間やスペースについては、文化活動団体等からの利用要望に対して積極的に受け入れるように努めるほか、その他の公共施設の空きスペースなどについても、誰もが利用しやすい交流の場となるよう施設運営の働きかけに努めたい。
		コロナ禍による施設の使用制限や活動での制約もあり、指標の目標値は達成できなかった。現在、新たな文化芸術活動の拠点となる新市民会館の建設に向けて準備を進めており、生涯学習機能等も備えた複合施設として整備する。また、公共施設の文化的活用については、市庁舎玄関ロビーを活用したコンサートや作品展示のほか、マルタスのオープンラウンジや丸亀城大手一の門の活用、学校やコミュニティセンター等へのアウトリーチ事業を実施した。引き続き市民の活動や発表の場の確保や文化芸術に触れる機会の充実に取り組む。

基本計画事項6 文化の振興による地域産業の活性化に関すること

実施事業 決算額	施策 No.	事業名	基準値(千円) (2016)	各年度決算額(千円)				
				2017	2018	2019	2020	2021
	①	うちわの港ミュージアム運営事業	5,277	5,649	5,790	8,465	5,592	5,770
	②	国の伝統的工芸品「丸亀うちわ」支援事業： 丸亀うちわ技術・技法講座	564	700	656	700	444	403
	③	中心市街地活性化「歴史的建造物」活用事業 (秋寅の館)	0	0	0	0	0	0
	④	丸亀うちわ海外PR事業	0	1,006	1,100	650	0	0
	⑤	丸亀うちわ活用促進事業	0	2,802	4,000	2,976	922	0

成果の 指標	指標名	基準値 (2016)	年度					目標値
			2017	2018	2019	2020	2021	
1	うちわの港ミュージアム入 館者数	22,155 人	22,122 人	23,866 人	24,920 人	8,713 人	9,531 人	30,000 人
2	丸亀うちわニューマイス ター認定者数	(延べ) 28 人	(延べ) 28 人	(延べ) 28 人	(延べ) 30 人	(延べ) 31 人	(延べ) 31 人	(延べ) 50 人
3	秋寅の館入館者数	14,960 人	12,002 人	12,646 人	11,144 人	5,339 人	5,338 人	20,000 人

各年度 評価	2017	国の伝統的工芸品である「丸亀うちわ」について、国内外に向けた情報発信を積極的に行うことにより認知度・ブランド力の向上に努めている。マイスターの拡充については、今後、積極的な支援を行い、地域産業の持続に努めたい。また、中心市街地を活性化するために歴史的建造物の活用を行い、まちなかの賑わいづくりの創出に努めているが、利用者の増加に結びついていないことから、地域や他の施設等と連携した活動も検討していくなど、利用者の向上に努めたい。
	2018	国の伝統的工芸品である「丸亀うちわ」については、国内外に向けた情報発信を積極的に行うことにより認知度・ブランド力の向上に努めており、2018年度に県が行ったブランド製品の認知度調査で、「丸亀うちわ」の認知度が向上している。マイスターの拡充については、引き続き、積極的な支援を行い、地域産業の持続に努めたい。また、中心市街地を活性化のための歴史的建造物の活用については、2018年度からは子どもたちの新たな交流の場として「にじいろ食堂」を開催するなど、まちなかの賑わいづくりに努めている。引き続き、地域や他の施設等と連携した活動も検討していくなど、利用者の向上に努めたい。
	2019	国の伝統的工芸品である「丸亀うちわ」については、国内外に向けた情報発信を積極的に行うことにより認知度・ブランド力の向上に努めており、2019年度は東京2020川パラの前年であったことから、プレ大会や代表選手を決定する大会（MGC等）において、応援うちわの配布を行うなどPRに努めた。マイスターの拡充については、H28年度以来となる2名の登録を行うことができた。また、中心市街地を活性化のための歴史的建造物の活用については、「にじいろ食堂」を開催するなど、まちなかの賑わいづくりに努めている。近隣には新たに宿泊施設などが完成しており、他の施設等と連携した活動も検討していくなど、利用者の向上に努めたい。
	2020	国の伝統的工芸品である「丸亀うちわ」については、国内外に向けた情報発信を積極的に行うことにより認知度・ブランド力の向上に努めており、2020年度は本来であれば2020東京オリパラの開催年であったが、新型コロナウイルスの影響により延期、他の関連イベント等も中止となったため、丸亀うちわのホームページの改修やポリうちわ製造工程の映像を制作するなどPRに努めた。マイスターの拡充については、昨年引き続き1名の登録を行うことができた。また、中心市街地を活性化のための歴史的建造物の活用については、新型コロナウイルスの影響により休止期間はあったが、子どもたちの交流の場として「にじいろ食堂」を開催するなど、まちなかの賑わいづくりに努めている。コロナ禍で、依然収束の見通しが立たない状況下ではあるが、引き続き、地域や他の施設等と連携した活動も検討していくなど、利用者の向上に努めたい。
	2021	国の伝統的工芸品である「丸亀うちわ」については、情報発信を積極的に行うことにより認知度・ブランド力の向上に努めており、2021年度も新型コロナウイルスの影響により、中止や無観客開催となる大会等があり、香川丸亀国際ハーフマラソンについても延期となった。そのため、当初、沿道での観戦者に応援うちわを配布し、PRする予定であったが、ランナーとしてエントリーした方への記念品うちわを配布する等、丸亀うちわの認知度向上を図った。マイスターの拡充については、引き続き、積極的な支援を行い、地域産業の持続に努めたい。また、中心市街地を活性化のための歴史的建造物の活用については、新型コロナウイルスの影響により休止期間はあったが、まちなかの賑わいづくりに努めており、コロナ禍で依然収束の見通しが立たない状況下ではあるが、引き続き、地域や他の施設等と連携した活動も検討していくなど、利用者の向上に努めたい。
5 年 総 括		コロナ禍により施設の入館者が減少する等、成果目標の達成はできなかった。「丸亀うちわ」の認知度・ブランド力向上については、ホームページ等による情報発信を積極的に行ったものの、大型イベントの中止等もあり苦慮した。マイスターの拡充を引き続き支援するとともに、うちわの港ミュージアムの中津万象園への移転を契機に、同施設と連携した文化事業も実施しながら地域産業の持続を図りたい。中心市街地については、秋寅の館での取組みのほか、空き店舗を活用した文化事業等、地域や他の施設、団体等の活動と連携しながら活性化につなげたい。

基本計画事項7 文化に関する情報の提供及び発信に関すること								
実施事業 決算額	施策 No.	事業名	基準値(千円) (2016)	各年度決算額(千円)				
				2017	2018	2019	2020	2021
	①	瀬戸内国際芸術祭情報発信事業	2,500	459	520	5,981	0	197
	②	HOTサンダルプロジェクト情報発信事業	1,454	798	1,417	758	0	2,302
	③	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館情報提供・発信事業	4,268	3,840	3,318	1,540	6,330	6,570
	④	マルカメラによる情報発信事業	9,903	4,309	972	0	0	0
	⑤	丸亀観光案内所(駅・城)事業	16,000	17,000	18,499	25,000	25,000	25,000
	⑥	文化観光大使活用事業	0	0	0	0	0	0
	⑦	文化資源デジタル化事業	129	799	8,693	8,565	7,865	1,449

成果の 指標	指標名	基準値 (2016)	年度					目標値
			2017	2018	2019	2020	2021	
1	猪熊弦一郎現代美術館HP 閲覧回数	533,599 回	557,619 回	484,597 回	323,446 回	531,422 回	521,490 回	700,000 回
2	マルカメラ投稿数	1684 (1684) 件	(5,389) 件	(4,701) 件	1,684 件	2,249 件	3,189 件	3000 (10000) 件

※( )は投稿数。2019年度より、成果の指標をフォロワー数に変更。

各年度 評価	2017	本市においては、広報、ホームページ、SNSなど、あらゆる方法で文化に関する様々な情報を発信している。そのためにも市民にわかりやすく積極的に情報を発信しなくてはならない。そこで、インスタグラムやツイッターと連携したマルカメラなどを利用することにより、市民のみならず、全国へ広がるような情報発信を行うことが可能である。また、猪熊弦一郎現代美術館など、世界にPRできる施設もあることから、今後も継続してあらゆる方法を活用し、情報発信を図りたい。
	2018	昨年度に引き続きインスタグラムやツイッターと連携したマルカメラなどを利用することにより、市民のみならず、全国へ広がるような情報発信を行うことが可能である。今後も継続してあらゆる方法を活用し、情報発信を図りたい。
	2019	インスタグラムやツイッターと連携したマルカメラなどを利用することにより、引き続き市民のみならず、全国へ広がるような情報発信を行う。年度末に企画していた四国カメラ部を講師に迎えた交流イベントがコロナで中止になったため、2020年度での実施を検討する。今後もフォロワー数を増加できるようあらゆる方法を活用し、情報発信を図りたい。
	2020	コロナ禍により、旅行やイベント参加などが難しい状況の中ではあったが、SNSを活用して積極的に文化芸術に関する情報の提供を継続するとともに、「丸亀の文化財」のFacebookを新たに始め、文化財の情報発信に努めた。また、アフターコロナ期における旅行需要の復活を見据え、マルカメラ等のSNSを利用し継続的に消費者に観光情報を発信し、誘客のきっかけとして今後も活用したい。
	2021	アフターコロナ期における旅行需要の復活を見据え、マルカメラ等のSNSを利用し継続的に消費者に観光情報を発信し、誘客のきっかけとして今後も活用したい。
5 カ 年 総 括		コロナ対策で公演等のイベントの開催が困難な状況もあったが、情報発信については継続して行い、1項目について成果指標の目標値を達成した。手軽に情報入手できるSNSの積極的な活用や、公演等のインターネット配信等の新たな手法を取り入れ、途切れることなく文化に関する情報の提供・発信に努めた。引き続き、文化芸術の振興はもとより、観光産業への波及効果も見据えて積極的・継続的に文化に関する情報の発信を行う。

基本計画事項8 文化交流の促進及び文化の担い手の育成に関すること

実施事業 決算額	施策 No.	事業名	基準値(千円) (2016)	各年度決算額(千円)				
				2017	2018	2019	2020	2021
	①	小中学校への芸術鑑賞教室	1,275	1,279	1,275	1,690	0	2,432
	②	若手芸術家支援事業	621	584	616	40	638	702
	③	丸亀市文化協会育成支援事業	2,388	2,388	2,388	2,388	2,690	2,690
	④	現存12天守同盟事業	885	967	212	84	0	0
	⑤	親善都市・友好都市文化交流事業	0	2,210	0	645	0	0
	⑥	各コミュニティへの出前文化教室	988	983	878	2,301	0	1,503
	⑦	丸亀市国際交流協会等との連携事業	552	552	603	636	241	376
	⑧	文化的指導者育成講座の実施	0	0	0	0	0	0
	⑨	文化庁事業「文化芸術による子どもの育成事業（巡回公演事業）」	0	FALSE	0	0	0	0

成果の 指標	指標名	基準値 (2016)	年度					目標値
			2017	2018	2019	2020	2021	
1	学校芸術鑑賞教室の開催回数	5回	5回	5回	7回	0回	8回	10回
2	若手芸術家支援事業開催回数 (採択数)	2回	2回	2回	0回	2回	2回	2回
3	文化協会所属団体数	110団体	108団体	109団体	101団体	99団体	98団体	110団体
4	地域出前文化教室の開催回数	4回	4回	4回	8回	0回	5回	4回
5	文化庁事業「文化芸術による子どもの育成事業（巡回公演事業）」	5回	2回	5回	4回	0回	2回	5回

各年度 評価	2017	本市における代表的な文化活動団体である文化協会に対しては、育成支援を行っているが所属団体が減少している。文化活動の担い手として、新たな活動団体の加入促進が急務と考えられる。また、未来の担い手となる若年層への文化芸術鑑賞等の機会の充実や若手芸術家への活動支援についても横這いであることから、参画しやすい環境を整えるための方策の検討に努めたい。なお、交流都市等とは積極的な情報発信を行い、文化を通じた交流や連携した活動を推進することによる活性化を図りたい。
	2018	文化協会については、所属団体数は微増であるが、引き続き文化活動の担い手として、新たな活動団体の加入促進が急務である。しかし、十分な対応ができていない現状である。文化芸術鑑賞教室等の機会の充実や若手芸術家への活動支援については横這いではあるが、プログラム内容について満足いただいている。なお、文化協会が2年に1度、計画的に交流都市等と親善都市交流事業を行っているが、文化を通じた交流や連携した活動を推進することによる活性化を図りたい。
	2019	若手芸術家支援事業について採択された者はいなかったが、過去に採択された芸術家によって芸術鑑賞教室を行うなど、計画目的を多角的にとらえた事業が実施できている。文化協会については、加入促進への対応が十分ではなく、引き続き検討が必要である。文化庁事業については、雅楽についての講演で、和楽器の扱い方や特徴、校歌の演奏、昔話に合わせた演奏など全校生が楽しめる内容であった。
	2020	若手芸術家支援事業により2名を採択し、それぞれコンサートや作品展の開催を支援した。また、過去に採択された芸術家によって芸術鑑賞教室（芸術体験プログラム）を行うなど、計画目的を多角的にとらえた事業の実施に努めた。文化協会については、加入団体の減少傾向が続いており、引き続き加入を促進するための取組みの検討が必要である。
	2021	若手芸術家支援事業において、2名を採択し、コンサートやパフォーマンスの公演を支援した。また、芸術体験プログラムについては、若手芸術家（過去に採択された芸術家を含む）による市役所ロビーやマルタスなどでのコンサートを通して、文化芸術に興味関心を持ってもらえるよう努めた。2020年度に実施できなかった学校芸術鑑賞教室については、コロナ対策を行いながらコンサートなどを実施し、子どもたちが文化芸術に触れる機会をつくった。加入団体が減少している文化協会については、展示会でワークショップを行うなど、市民に興味を持ってもらう取組みを進めることで加入を促進したい。
5 カ 年 総 括	2020年度はコロナ禍で多くの事業が実施できない状況であったが、最終的には成果指標のうち2項目で目標値を達成できた。学校への芸術鑑賞教室や地域への出前文化教室は、コロナ対策を行いながら積極的に実施した。また、若手芸術家支援事業を継続して実施するとともに、採択者に後年度においてもアウトリーチ事業で公演してもらう等、減少していた文化芸術に触れる機会の確保に努めた。交流事業は、今後のコロナ対策の緩和も見据えてと組みを進めていく。文化協会については、担い手不足等により所属団体が減少している。ワークショップを取り入れる等、既存事業の見直しもを行いながら市民の参加を促したい。	

基本計画事項9 その他、文化の振興に関する重要な事項								
実施事業決算額	施策No.	事業名	基準値(千円) (2016)	各年度決算額(千円)				
				2017	2018	2019	2020	2021
	①	各コミュニティへの出前文化教室	988	983	878	2,301	0	1,504
	②	こんびら街道事業	350	350	350	350	0	0
	③	まちあるき事業	500	500	500	500	490	300
	④	笠島まち並保存地区保存整備事業	9,996	6,065	9,006	6,185	17,110	11,020
	⑤	自然環境保全事業	8,897	8,741	7,423	8,011	6,976	1,012
	⑥	城下町環境保全事業	0	0	0	0	0	5,060

成果の指標	指標名	基準値 (2016)	年度					目標値
			2017	2018	2019	2020	2021	
	1 地域への出前文化教室の開催回数	4回	4回	4回	8回	0回	5回	4回
	2 まちあるき事業コース数	8コース	6コース	6コース	6コース	6コース	6コース	8コース
	3 笠島まち並保存地区保存・修理事件数	8件	13件	3件	3件	8件	12件	(延べ) 50件

各年度評価	2017	本市の自然環境や歴史環境の保全に努めているが、文化活動につながっていない現状である。積極的に文化活動に参画できていない市民を対象にアウトリーチ事業を実施し、参加機会の創出を行っているが、今後も確実な継続に努めたい。また、地域資源の素性を的確に受け入れることのできる市民を育むための取組みを検討し、後世に引き継ぐことができる仕組みを創出したい。
	2018	コミュニティを巡回し、アウトリーチ事業を定期的に実施し、参加機会の創出を行っており、今後も継続したい。また、地域資源の保存管理とともに、魅力PRに努めたい。
	2019	継続して行っているアウトリーチ事業や地域資源を活かした事業に加え、瀬戸内国際芸術祭の開催年であったため、芸術祭期間中に作品が多く設置されていた笠島まち並保存地区にも多くの観光客が訪れ、地域資源のPRとなった。
	2020	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、アウトリーチ事業の実施は困難な状況であったが、地域資源を活用については取組みを継続している。また、本市は、さぬき瀬戸大橋広域観光協議会に加入しており、関係団体との連携や情報収集等をすることで、複合的な観光資源の調査・研究・開発などを行い、広域観光圏におけるより一層の連携強化を図っていく。
	2021	本市については、さぬき瀬戸大橋広域観光協議会に加入しており、関係団体との連携や情報収集等をすることで、複合的な観光資源の調査・研究・開発などを行い、広域観光圏におけるより一層の連携強化を図っていく。
5カ年総括	成果指標の目標値については、1項目の達成となった。地域への出前文化教室により、身近な場所で文化に触れる機会の提供を積極的に行った。普段の生活の中で文化芸術を体験いただけるよう、今後も継続して実施する。また、笠島まち並保存地区やこんびら街道の歴史的な景観、里山や島しょ部の自然環境等の地域資源の保存・活用については、様々な主体の協力が不可欠であることから、引続き関係団体等と連携して取り組む。	